教えてもらった話

～私たちが大切なことだと感じたこと～

Vol　4

ご自由にお持ち帰りください。

安　心・快　適　そ　し　て　ワ　ク　ワ　ク

株式会社 くるま生活

『幸せになれる子』

「幸せな子」を育てるのではなく

どんな境遇におかれても

「幸せになれる子」を育てたい。

美智子皇后陛下

『みんないっしょ』

私が会った子どもたちはみんな可愛かった。笑っている子ども、ふざけている子ども、赤ちゃんをおんぶした女の子、さかだちを自慢そうに見せてくれた男の子、いっしょにうたった子ども、どこまでも、ついてきた子ども。いろんな子どもたちに会った。そして、両親や姉兄を目の前で殺された子ども、ゲリラに腕や足を切り取られた子ども、親が蒸発し、小さい弟や妹を残された女の子、親友だった家畜が、飢えて死んでしまいぼう然としていた男の子、家も学校も、すべて破壊されてしまった子ども、難民キャンプを、たらいまわしにされている孤児たち、家族を養うために売春する子ども。

だけど、そんなひどい状況のなかで、自殺をした子どもは、

一人もいない、と聞いた。希望も何もない難民キャンプでも一人もいない、と。

私は、ほうぼうで聞いて歩いた。「自殺をした子は、いませんか？」「一人も、いないのです」私は、骨が見えるくらい痩せて骸骨のようになりながらも、一生懸命に歩いている子を見ながら一人で泣いた。

「日本では、子どもが、自殺してるんです。」

大きい声で叫びたかった。こんな悲しいことがあるでしょうか。豊かさとは、なんなのでしょう？

私がいろんな子どもに会って日本の子どもに伝えたかったこと。それは、もし、この本の中に出てきた発展途上国の子どもたちを、「可哀想」と思うなら、「助けてあげたい」と思うなら、いま、あなたの隣にいる友達と

「いっしょにやっていこうよ」

と話して。

「みんなで、いっしょに生きていこう」

と手をつないで。

私の小学校、トットちゃんの学校には体の不自由な子が何人

もいた。私のいちばんの仲良しはポリオ（小児マヒ）の男の子だった。校長先生は、一度もそういう子どもたちを「助けてあげなさい」とか「手をかしてあげなさい。」とか、言わなかった。いつも、言ったことは、「みんないっしょだよ。いっしょにやるんだよ」それだけだった。だから私たちは、なんでもいっしょにやった。誰だって友だちがほしい。肩を組んでいっしょに笑いたい。飢えてる子どもだって、日本の子どもと友だちになりたい、と思ってるんですから。

　これが、みなさんに、私が伝えたかったことです。

黒柳徹子

人は何かひとつくらい
誇れるものを持っている
何でもいい！それを見つけなさい！
勉強が駄目だったら運動がある
両方駄目だったら
君には　優しさがある

～　ビートたけし　～

みんな俺を自信過剰だと言うけども、 自分に自信持たな、どうすんねん。（松本人志）

『友情は一生の宝物』

友達って、おごってくれんのが友達か？なにしても怒らないのが友達か？まちがってても止めないのが友達か？ちげーんだよ。

本当の友達は金がなくたってそいつといりゃめちゃくちゃ楽しいんだよ。自分が困ってたら誰よりも早く手差し伸べてくれんだよ。間違ったことしたら本気で叱ってくれんだよ。つらいとき１人じゃねーって分からせてくれんだよ。悩んでたら自分の事のように一緒に悩んでくれんだよ。なにがあったって見捨てたりしねーんだよ。親に話せない事もそいつになら何故か話せんだよ。誰にも見せたくねー涙もそいつの前ではガキのように流せんだよ。

今のお前にそんなやついるか？いるやつはそいつを家族のよに大事にしろ。友情は一生の宝もんだ。いねーやつは自分でみつけろ。誰にも見つけらんねー。見つけられんのはお前だけだ。

本気でぶち当たって本気で語り合えるやつ

　そいつだけはなにがなんでも大事にしろ。そいつはぜってぇ自分を信じてくれてるはずだ。だからお前もそいつを信じぬけ。そしていつかわかるからこの世に産まれてこいつに出会えて笑って泣いて怒って本当に自分て幸せなんだって

「失敗」

　失敗には、許される失敗と許されない失敗がある。

　許されるのは、新たなことにチャレンジした失敗。

　許されないのは、不作為の失敗。やるべきことをやらなかった失敗。　畑村洋太郎（工学者・工学博士）

《　最後の宿題　》

とある学校の、病気で亡くなった教師が担任を持っていた生徒に向けて残した最後の宿題「幸せになりなさい」

　君たちが宿題を出す頃におそらく僕は天国にいるでしょう。

　急いで報告に来るな。

　ゆっくりでええから。

いつか面とむかって「幸せになったで」ときかせてください。

待ってるで。

『楽しんで生きる』

夢なき者は理想なし。

理想なき者は信念なし。

信念なき者は計画なし。

計画なき者は実行なし。

実行なき者は成果なし。

成果なき者は幸福なし。

ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。

一人ひとりに天の使命があり、その天命を楽しんで生きることが、処世上の第一要件である。

『みんなママが好き』

長女が「何であたし、こんなにママが好きなの？」と嫁さんに真剣に聞いてた。

嫁さん「人ってね、自分の名前を呼ばれるのが好きなのよ。あきちゃんも、はるちゃんも、るいくんも、生まれてからママ

が一番たくさん名前を呼んでるからみんなママが好きでしょ？あきちゃんもママ、パパ、ばば（近居の嫁母）の順に好きじゃない？それはあきちゃんの名前をたくさん呼んだ順じゃないかな？」

なるほど、ここ 10 年オレの名前を一番呼んでるのは嫁だ。だから嫁がいつまで経っても好きなのか。 納得した（娘も納得してた）

『出会いを大切に』

『0.00000000000000006%』

これはいったい何の確率でしょうか？

これは、日本に住んでいる人同士で誰かと誰かが出会う確率です。人との出会いって、なんでもない事として過ごしているけど一人ひとりが「奇跡」のようにめぐり合っているんです。出会いを大切に。奇跡を大切に。

『幸せの 7 つの習慣』

1.笑顔

2.他人と比べない（比べるなら自分の過去と）

3.自分と友達になる

4.人から好かれようとしない

5.過去を忘れる、そして作り直す

6.ポジティブ・シンキングする必要はなくポジティブ・リアクションで十分

7.批判に無神経になる

『ここ一番』

神戸観光ホテルで修業したときは、往生しましたよ。板長にいじめられたんです。僕、仲居さんとのチームワークをよくしようと思って、彼女たちに気を使っていたから、けっこうかわいがられていたんです。だから「ろくさんお願いね」って、何かと声をかけられる。それは本来、板長とか上の人を通してもらわないといけないことだったから、板長はおもしろくないわけです。

僕は当時２０代前半。向板（むこういた）という魚をおろす係をしていました。それ以外に板場の進行役でもあったから、

１日１５、６時間は働きましたよ。忙しいからなるべく早く調理場で準備したいのに、板長が意地悪をして開店の１時間前でないと調理場に入れてくれない。準備にはどんなに急いでやっても、たっぷり２時間は必要でした。僕は調理場を動き回り、いつも以上に「早く、きれいに」 仕事をする工夫をするわけです。そんな様子を見た先輩は、僕のことを「駆逐艦」と呼んでいました。それでも板長は「このボケ、遅いぞ」と罵声を浴びせてくる。せっかく作った料理も気に入らないとひっくり返される。それが毎日毎日続くものだから、「もうこの商売をやめようか」と思うようになった。

僕は子どもの頃から辛いからといって、途中で投げ出したことはない。それがこのときばかりは、真剣にやめようかと考えました。でも、考え直したんです。せっかくここまで修業してきたのに、やめてしまったらまた一から出直しでしょう。ここが踏ん張りどころだと思いました。そして「どうやっても、もうこれ以上はできん」というぐらいまでやってみることにしたんです。「早く、きれいに。早く、きれいに」と唱えながら、死に物狂いで仕事をこなしました。どんなにいびられてもへこた

れない僕を見て、板長のいじめも徐々におさまっていったのです。あのとき頑張れたからいまの僕がある。もし、苦しいことから逃げ出すことを選択していたら、ズルズルと落ちるところまで落ちていたと思う。

人生には「ここ一番」という踏ん張りどころが何度かある。どんな分野でも一流と呼ばれるのは、そういう「ここ一番」道場六三郎の局面で踏ん張ることのできる人だよね。二流は踏ん張れないから、いままで築き上げてきたものまでガラガラと崩してしまうんだ。人間、一度でも崩れることを許したら崩れグセがついて、次の「ここ一番」も頑張れない。

道場六三郎

忘れられない結婚式

私、ウエディングプランナーをしてて、沢山の幸せのお手伝いをさせてもらったけど、忘れられない結婚式があります。

新婦は私より大分年下の 10 代で可愛らしい子、 新郎は彼女より 20 歳ほど年上の優しい方でした。年の差カップルは珍しくないけど、これが一筋縄では行かなかったのよね…。新婦は

お父様に育てられて、そのお父さんが「結婚は勝手にしろ。でも式には出ない」でも 2 人はみんなに祝ってほしいと。

ええ、頑張りましたよ。新婦のご実家に 2 人と一緒に何度も行きました。頭も何回下げたかわかんない。「お前は関係ない」と言われました。その通りです。でも私は 2 人の結婚式を 2 人が望むものに、最高の 1 日にしたかった。それが私の仕事。

意見や愚痴がどっちも私に集まってきて正直キツかった。面倒くさいと思ったこともある。でもある日「お前一人と話したい」と電話がかかってきたんです。すごい怖かったよ。 何を言われるんだろう？と。

でさ、約束した日に指定されたところに行ったらさ、お父さんいつもは顔も話し方も怖いんだけど、その日はすごく大人しく小さな声で、娘さんが生まれた日の話、小学校の運動会で張り切ったら「お父さん恥ずかしい」と言われた話。中学の頃は話し掛けてもろくに答えてくれなかったのに、娘さんが修学旅行から帰ってきた日に仕事から帰ったら、テーブルにお土産の携帯ストラップが置いてあって本当に嬉しくて今でも付けてること、「結婚したい人がいる。」と初めて言われた日のこと…。

色々話してくれました。

「娘が本当に可愛い。娘が選んだ男に間違いはないと思ってる。でも気持ちの整理がつかない」って。泣いたね、あれは。最後にお父さん、恥ずかしそうに「結婚式ってどんな服を着ればいいんだ？もう何年も服を買ってないからわからないんだ」って。夜、娘さんに電話してその日のことを話したら、娘も新郎も号泣。私も号泣

数日後、娘と私とお父さんとで服を見に行ったよ。で、結婚式は無事に開かれて大成功！かと思ったんだけど、ブーケトスで娘が ブーケを投げない。？？？

なにこっち向いてきょろきょろしてるの？と思ってたら娘、すたすたと歩いてきて私に手渡しでブーケをくれたの。まわりの人たちは拍手。どうやらお 2 人とお父さんは結婚式に至るまでのことや私のことを参列者に話してたみたい。もう・・・本当にあれは嬉しかった。涙が止まらなかった。今でもあの時の体の震えと彼女の笑顔が忘れられない。正直、出過ぎた真似なんじゃないか？とか　自分のやってることは正しいのか？とか考えてしまうこともあったんだけど、たくさんの人が「いい結

婚式だった」と言ってくれたから良いや。もうそれだけでいい。

今年、2 人から「赤ちゃん生まれました」の年賀状が届いたよ。 赤ちゃんを抱いた デレデレのお父様の写真付きで。

『ひと言のやさしさ』

ハンバーガーショップで列に並んでいました。一番前の男性が怒鳴り声になりました。「何しとんねん。トロイんじゃ、お前！もうエエわ!!」と怒りをあらわにし、商品が入った紙袋を奪い取るようにして店を出ていきました。

バイトの子は、「申し訳ありませんでした。すみませんでした」と何度も頭を下げていました。一瞬にして店内の空気が刺々しくなりました。

２番目に並んでいた７０歳位のおじいちゃんに、バイトの子は、無理やり作った笑顔で、「いらっしゃいませ」と接客しました。おじいちゃんは静かな声で言いました。「おねぇちゃん、エライなぁ。あんなこと言われて、あんたの心はズタズタのはずや。にもかかわらず、わしに笑顔で接客してくれた。あんたの笑顔を見て、孫を思い出した。これから孫に連絡を取ろうと思

う。ありがとう。あ、コーヒー一杯。」

　その言葉を聞いた途端、堰をきったように、バイトの子の目から涙が溢れ出しました。ワンワン声を上げて、泣きだしました。しばらく涙が止まらなかった。刺々しかった店の雰囲気が、一瞬にして和らいだのです。

　ググっときました。 感動しました。おじいちゃんのひと言のやさしさで彼女は救われました。ひと言の温もりから明日の勇気が生まれます。日々何気なく過ぎていく毎日の中に心に残る小さな小さな物語があります。喜びも苦しみも分かち合う、そんなやさしさに満ちたひと言を発することができるといいですね。

　言葉が人生をつくっていくのです・・・。

　最後までお読みいただきまして

ありがとうございました。

ホンの少しですが、この冊子を手に取られたすべての人が心豊かになることを祈念しております。

株式会社くるま生活は幸福創造企業です。

私たちは人が幸福になるために必要な事は二つあると考えています。

①人に存在を認められる事

②素敵な想いが実現すること事

私たちとご縁がある方は勿論のこと、ご縁の無い方も幸福になるように仕事させていただきます。(*^^)v

〒720-0961
広島県福山市明神町２丁目9-25
株式会社くるま生活
代表取締役社長　井上康一
TEL　084-943-7123
info@kurumaseikatsu.co.jp
第４回作成　2013年8月25日
コピー大歓迎。何部でもお届けします。